
12月の想い

緋色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

12月の想い

【Nコード】

N2771B

【作者名】

緋色

【あらすじ】

自分の存在意義に疑問を持つ青年『桂木誠治』と難病で入院生活を送る少年『橘悠翔』二人の視点から進んで行く世界二人の出会いがそれぞれの想いを変えていく。二人がどのような答えを出していくのか…

二つのプロローグ（前書き）

プロローグが二つと言う書き方をしてしまいました。簡単に二人のスタートラインだと思って下さい。分かりにくかったら申し訳ありません（汗）

二つのプロローグ

プロローグ

『桂木 誠治』

『人が生きるのはきつと意味があるからだ』

何かの本で読んだこの言葉をずっと頭の片隅に置いて生きて来た。ただ日々同じ事を繰り返す日常の中で虚ろになって行く自分が居た。

『人が生きるんに何か意味があるのかなあ？俺は自分が生きとる意味：分からんわあ。』

そんな風に考える様になった。

大した不満がある訳でも無く、

これといって大層な望みがある訳でもなかった。ただ、漠然とそんな思いが自分の中で大きくなっていったのだ。

そう：12月に入り寒さが増したあの日にあの子に逢うまでは：

その子に逢えたお陰で俺は自分の生きる意味を見つけられた。

後悔なんてしない、ましてや間違ってたとは思わない。

『これで良かったんや：ありがとう、逢えて良かった』

N e x t

『橘 悠翔』

プロローグ

『橘 悠翔』

真っ白なカーテン

真っ白なシーツ

少し大きめの窓

清潔にされた飾り気の無い部屋

僕はいつもこの真っ白い部屋のベッドの上で空を見上げていた。
透き通る様な青空が広がっている。

『僕は白より青の方が大好きなんだけどなあ』

そう思っても僕はその外に自由に出られない。外に出れるのは散歩の時間だけでいつも看護婦さんが一緒だ。毎日が退屈に思えた時に、看護婦さんがお兄ちゃんを紹介してくれた。

その日から毎日が楽しくなって嬉しかった。苦い薬も痛い点滴も嫌だったけど、その時間だけは楽しみで仕方なかった。

でも…ある日いつもの様にお兄ちゃんと遊んでたんだけどその日凄く眠くて寝ちゃったんだ。

次に目が醒めたらお兄ちゃんは今なくなっちゃった。お母さんに聞いたらどうやら遠くの実家に帰らなきゃダメだから来れなくなっちゃった…

『嫌われたのかな…また会いたいな』

不安な気持ちになったけど、僕はお兄ちゃんが約束してくれた事を思い出した。

『いつでも側に居ったから心配しなや』
て、言ってくれたから僕は信じる。

『また会えるよね?』

二つのプロローグ（後書き）

これから交互に二人の話を続けていくので宜しければ最後までお付き合ってくださいませ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2771b/>

12月の想い

2010年10月21日21時57分発行